

# ホームニュース

home 第393号

130周年 中田新聞 news

中川区・中村区

毎月第2・第4土曜日発行 / 発行部数91,250  
 発行地域 / 中川区・中村区全域  
 発行 中日ホームニュース社  
 〒454-0985 名古屋市東区春田3-80

広告掲載・編集・取材についてのお問い合わせは  
 中日ホームニュース編集部  
 〒451-0042 名古屋市西区那古野1丁目20-9  
 TEL / 052-726-5728 Fax / 052-308-3710  
 メールアドレス / homenews@f-creative.co.jp

## 「寛家住宅」 | 11/3 (木・祝) 愛知登文会国登録有形文化財建物特別公開

# 文化財を 身近に感じよう!

10月30日から11月19日まで、愛知県にある国登録有形文化財の「建物特別公開」が行われます(主催:愛知登文会)。名古屋地域の公開日は11月3日(木・祝)で、この地域では中村区下米野町3-29の「寛家住宅」が公開されます。

寛家住宅当主の  
寛清澄さん  
(かけひらよすみ)



### 明治初期の様式が残る 「鳥居建て」の農家

寛家住宅は、明治初期に近所の農家から曳家で移築された農家住宅です。主屋は江戸時代中期の「鳥居建て」と呼ばれる形式で、元の建物が建てられたのは江戸時代の後期と推定されています。

文化財登録は平成25年12月で「当時の農家の建物が、大切に保存されていることが評価されました」と、当主の寛清澄さん。

公開されるのは主屋の座敷と縁側、庭園で、寛さん自身が解説してくれるそうです。



黒くすけた天井

風格ある主屋に入って上を見上げると、竹とむしろで作られた「すのこ天井」が目に入ります。黒くすけているのは、ここにいるりがあったから。「すすけた竹の管は、能楽で使う横笛の材料になったそうです」。

柱にはところどころ「ほぞ穴」が見



寛家住宅の玄関口

られますが、これは何かの建物の柱を再利用した名残りだそうで「昔は木材が貴重だったので、リサイクルされることが普通でした」。



ほぞが見える柱

### 特別公開日には 「折り紙建築」も展示!

特別公開日には、寛さんが作成した「折り紙建築」も展示します。名古屋の重要な建築物を立体的に表現した作品で、「東海学園大講堂」や「納屋橋」、「向野橋」などが展示されます。また、子どもには「テレビ塔」の折り紙建築をプレゼントします。



異彩を放つのが、四角形のボルトで組み付けられた柱です。聞けば、これは1891(明治24)年10月に起こった濃尾地震で傾いた主屋を支えるための添え柱。ちなみにボルトは、町の鍛冶屋さんが手作りしたものだそうです。「明治期の名古屋の歴史が建物の中に詰まっています」

つい20年ほど前までは、このような古い屋敷は名古屋のあちこちに残っていたそうですが、どんどん取り壊されてしまい、今や数えるほど

になってしまったそうです。

古い建物には価値がないとされがちですが「いまの木造住宅のように、人工的な建材はほとんど使われていません。手入れさえすれば、いつまでも使い続けられます」と、寛さんは胸を張ります。

今回の特別公開で「古くても価値のある建物に触れてもらうことで、歴史の重みを再発見してもらえたら」と、意気込みます。



手入れの行き届いた庭園。松は名古屋能楽堂の「若松と老松の鏡板」のモデルとされる

### 「寛家住宅」建物特別公開

●11月3日(木・祝)  
 14:00~、15:00~、16:00~  
 要予約、参加無料

参加希望の方は、☎242-3262(都市研究所スペース)  
 またはinfo@aichi-tobunkai.orgに申し込みを。  
 詳しくはホームページhttp://www.aichi-tobunkai.org

